



利12  
番1089  
巻



うりかをのめりし上  
 ひろし志氣ゆれ大またさの魚んけくまよ  
 こころれおを思あひりみこころりおのこ  
 一人りこころも子心のさとれ事しきりなり  
 ちくこころいとあやしま子なりおひおをやう  
 取みんとて又もよませはりのいなりある事  
 色はくしておしぬはるるとし色あはせさの  
 ぬりくあはるるありあしせさいおなる年一は  
 かしこまう人よあふおちり張りとさそあまき  
 とし文を流るりるるるるおおやわけきり  
 めしてあやうめつららるるりなりおて

ひ見んとおぼはれ給よ十二さうのまてううあ  
ちのみにしありうう死さうえお望年のあうま  
ひふあうろ見んとおぼはれてありあうふま  
たひまて建るさうせはりともこの町いひとく  
ひふ張めーてあうまのさうのさうさささひ見  
させ給ふさひくのありさうひくさやうれ  
たのこともささあうおのこともて海とひ張  
志て張くさうの海とささてまらぬよと  
うけを望やうれ又張のとおなく張く望  
てま建ふと死母一ちしうの人みあひあさ  
みてそのたひさうけ一人ちんーふはらぬ

又の年おさうくさうせ張めーてさうさひの  
さうと給ふけうさよてんよて目さうさひ  
と給ひくあうくとも張くーうけひらさ  
うひてあうあうよえせぬ事ーなうおなうく  
張く建るさうあうく思ふまふこく人さ  
さうあうの文とさおひーうくけうあわてみ  
あうたさううせ給てすぬららさああのをさう  
おあさ建ぬそのあうさうけああうられさ  
さうあうさものーあは事あうみたさあをさ  
あうなうは母まおこたふ二のあわさあひ  
さうふさうけ十六さいなる年ありあうふ

世一とて思ふうと見せしとふささうと  
人取えうひてたりとるのししとのまよ年親  
めされぬ又母りあ一ぬ事ゆくふたとふふ  
うとあ一一生ふをとりまき子なりうとさ  
さえ人よまくれとあ一たふ見て父のをそ  
なまのりいとさふれなひのなみと張持と  
みとらうなり程入りあひみん事れうとま  
みちりりりしてさひはちくとも年親うかしひ  
思ひやうとし三人の人ひとひはとへそちの  
後とれとておとらてはぬよみ入りのりぬ  
り旅あ一おつとらんとはちなりとふあとの風

あきて三あうあ二ハそとあは違ぬおやうの  
人志つとゆる中まよと一うげのあうとくお  
をかされぬと幽のけれふはうらとせられて  
たよをけくつあ一まよはみと張なりして七  
さいふもと一うけあはうと海流なりんそん  
あうのれ程人とらんとたん乃りんせいとねんし  
まうと人考げとまわおふと思しぬ程はく  
たまうとあふまよ出まてをとらああまとい  
たくとと一うげせたひあ一おらうびるるを  
志望すると思ふ程よふとくひふのせてらひ  
ふとびてまよをせり一させんべんのうけふ

とつれりの張ちさして三人の人なほひのむく琴  
張ひきあそよあよあらししとききてるささえ  
う勢ぬ年報もやこれりとりとて里三つん  
の人らひてりしとくつ連ハ有ふるの人を年報  
あよよ張日本國目うれはつひ清原の年報也  
あやうをううくとりあ時入り三人あこれ  
さび人母うあなれ志さう一解とさびう一空  
つひてなうつるあの時おちりさうし張  
おてまへつ年報りと此國なり一時をひり  
いさう物を琴なうう張い二人の人琴とのこ  
ひくされいそのひあめてなうぬよをといのひ

のこさきととり川流の流西のみちれ志つを張  
なあのつしありあうとりあくる年一の雲い  
きけしげもやトよをあ入り張よふはをの  
乃あうううあまこ物さ時ふりうけ思ふ報  
をうううならひくまのぬり一絲にかるをさ  
まうふと思ひて琴とひき文と志物しては張  
まうふ三年い木の巻さしは年月のゆくま  
おをのうひく琴れし志よひくさうよつり其  
時ううけおのふりとをこら田のすし田の  
おもて張見めくらをかあくよりしをまて山  
見えは天地をとつよみゆうまてまうせうひ

夕院よあらの孫よかよつるひくまのまろを  
いつあるそこ井木のあくるん取為てしとをけく  
くろくしろくろくせむたりひて年親三人のふよ  
やと海城こひてをのこく急きこゆらわこふ  
あしとせしてくまさちうくくまけみて海河  
まのくく張あしてま年くれぬ又あくる年親  
くれぬ三とせとりふせしれ美大なるみひよ  
のかりて忍ぬくくせしといくくき天にけきて  
あらしと山をくかよみゆとくけつさか  
まのひしとくまやまあし張せしてゆくか  
くしとま山よりくまを忍まきせし子あうれ

あふれそこ小孫とゆしてま人まくもよけ  
えくそとありれ國よさせはまられ本とよ  
しと見ア本所く取ものまうらののりと張え  
連もけくまをまくくあくくくありてとみれ  
まかひく張たゆらうくくあしとみ連し  
まきくまれしとまかこを忍ましとまま  
のくくくれまうめきてけかきまおさけ  
子世ひまこなとぬくくく色とけとへて本張  
まらまおひくくけ張方ハけ山よけらけ  
けと思ふおくくくくく色とけとへて本張  
らの中おましとまぬあまられ大おけくく

つしをびんちを何をも人そ平教おふふ今日平  
國王の所うひ橋原のとりけい山とあぬる  
事一三年おひりぬらふ張のつくはんい山と  
為えたる世あきらみの建る即ちら張せいで  
物河ふらまてりあきらみまんらうれ修この  
なりもましく致きてとちおひのめひけらと  
りへとま人のけらちのまをあらりふよせひ山  
の初とまおのりくくけさまのハあきらめ  
志あとせよをあてら建るわつふおひてり  
人の力とうけてはんらうあくよ建るすま  
やうふもよりとせとまなこ張車の目れ

いしく見くらぬてと張所のまのましくひ  
せいでりの張りけい山とあぬる  
あれしこい山張あぬる事をけい山とあ  
かひらぬらまてけい山とあぬる  
まけおる河をけい山とあぬる  
まあくとあくとあくとあくとあくと  
の國よをい山とあぬる  
山とあぬる  
まての事とこふあきらめ  
あきらめい山とあぬる  
まゆんおくのひとあぬる

志しあはせは日平乃謝にうんふくハ父母を  
と申しふるして四十人の子とそ乃りかしく  
子人のけんそくのりかきふよりてなんち  
うりのりゆかきんぬなんちすこやうふ  
まらまゆつしてあそらのうめふ大らんやと  
のかくやうせよ行んち日平の父母よびのふ  
る来たふもとあさるんとりよ時よとくけ  
ゆかたりとてつもと日平を山とさけぬか  
思ひのひとてそちくもくあひとて一  
せよひとて子なるゆりこのあつく志のひけ  
めくしとすてく國をれ終りくことるよりふ

くちてまきまきりも父母れな計の候張なり  
トそのくぬしくぬぬけうれ子なるもおやふ  
るのさるげさあさるせよまうれ子なるもあさ  
き思ひのあさきふむりつをその病ひぶさう  
と年親あさのりせおやひなるなまかあひく  
とさうり張ほちかりて一人志ぬせのいぬ  
くくらひて年ひくくけりぬあうりあまもふ  
きうれ人あまいけり張まぬの連んさあふり  
ふよさうりまのめさるり終りて年一は老  
きう父母よ琴れ孫と守りてそのめいとあ  
さんまのりふ時よとめもとをい再れ一を



とく人々をそのゆへに世の父母佛もなる  
紡ひ一日あめりひこくくわあして三年  
かまらるる若み天女くくおんちやうく頭して  
うへし来也さしてすゆりら天女のたましくい  
本を海をられまんあうれゆをゆりもをきん  
世よ山くわあよきくくちさくく建む也其  
時ふさふして三か一よわりちてうをれちか  
を三やうらまもくめをりてたう聖てんまて  
おをよやうん中のちかハたた乃親よひくひ  
志まのちかハゆくまへれ子たよひくひんと  
の終ひし来也あをら張山のりりになされて

雲ハもかすのあきハりみられまやト小天女  
ゆりまもくくであうひゆふ雨也たもやもく  
来まうゆもたふまのらんやそとくく八年月  
るておをこけく親まんらうれけこけあかさ  
むあ一きみ海のう連んとて海りりけくれる  
と指りこ一かとくた一海にふるてうたんら  
おあさるんとつひと品今もまんとあう時よ  
おやうくれうひくくくうて車の目乃くく  
たうあゆりゆりけらけりひくめあてまうお  
の建るまもを食れとあをらおとくせしてよる  
ぬあく張みまもくけは事一三かの本乃志を

の志か八日平の成生年親入り(びきととつて)  
あはらおをきし(おとろくきして年親とせし)ひ  
おりのあれ(うと天女の約束)子よして(う  
おりー)の建とたう(うひて)い(を)い(ま)の上中  
下志もの志か(とも)大(く)く(く)れ(ま)也(一)を(と  
り)ら(て)び(き)し(を)は(ら)紙(く)く(ふ)一(カ)ら(う)り  
志(や)れ(た)り(う)且(み)お(を)ま(り)皇(本)の(志)か(ハ  
考(と)ち(ら)て(り)ん(た)う(き)た(う)を(な)う(へ)ふ(と  
の)ひ(ま)あ(ま)ら(ま)と(り)お(し)て(且)皇(本)は(く)親  
ひ(く)き(ふ)あ(わ)り(り)ひ(こ)く(り)ま(し)く(て)琴  
三十(所)く(ま)そ(の)お(り)紙(ひ)ぬ(う)く(て)す(れ)り(り  
を(ん)志(か)う(く)し(て)天(女)り(り)ま(し)て(う)か(し)を  
ぬ(り)た(な)し(紙)より(を)け(さ)せ(て)よ(う)を(ぬ)り(り  
て(三十)の(琴)紙(作)して(年)親(は)し(や)し(う)を(あ)よ  
あ(ま)ま(る)せ(ん)う(ん)の(と)や(ふ)う(り)あ(ひ)て(は  
琴(此)孫(と)ひ(み)ん(と)と(て)お(ち)親(よ)は(ら)風(出)ま(し  
三十)の(う)と(と)く(ら)そ(と)ま(て)ひ(ん)ち(よ)せ(ハ)を  
同(一)琴(也)る(る)も(紙)二(小)所(く)建(紙)の(山)く(り)連  
珠(目)れ(さ)け(て)切(と)な(く)山(ひ)も(ら)わ(小)ゆ(と)あ(ふ  
と(う)け(は)ま(と)ま(し)り(ま)り(や)し(み)ひ(と)ら(し  
な(め)て(あ)ま(の)孫(は)あ(う)き(り)の(あ)ら(て)る  
所(そ)よ(に)三(と)せ(を)り(ふ)年(は)美(山)う(を)あ(り)

あふれをたうのようつりて琴世なうを垂て  
大けらたぬま凡うけふやうまで我國の事又  
母の事思ひやりて夢うきまゝに二れしと紙  
ひつらうまのゆれいつとのとくちなるよ山とみれ  
しりすまをみまらうまやーみまそこのめ  
りありにしなさうりふおのりーろくてらゆれ  
ひまれ時つらふことれ終りのさおくまあり  
かそくあうふ時よおやうふをんちやうく  
あそひうきぬのまよのまらた人の七人つきて  
くさりのゆふとけけやけおのこて終ありぬ  
天人衆の上りおりのぬくのゆふあもれなん

その人のうらうは花と見あきさへりみち紙つら  
とそ我おのうらあふゆれむてうきおありよ  
ゆぬおたうまゆれままいそまかりし是よま  
葉よあまうらあつらまえゆひし人として  
のゆふとけけま本終りし衆生也く佛の  
即うひゆふあときさうてまわやうを終ふと  
かな思ひて年比おりりゆかとおよ天人の  
ゆもまあうも我おの思ふゆ乃ま人あ終すま  
終ふりまらり天のまきてありてるの下ま琴  
ひきてうらうを人よりんまらり我を若  
ゆきあうなうまうしきてあくまを紙の紙

園よりを来りてあよらぐりて七とせりて  
そこ小童子七人とまをふさを人ぞぐらく  
あやうど此町く小琴張ひきあをせえあそふ人  
りをそこよ浮りて其人の子を引取と目申へ  
悔り悔ひ三十九あとの中ふあたまさるる  
とて我必付一としけん風と付ひ二の琴と  
めいさん乃人のあまていらま志るをて又人  
おまらひなとのあふひ二のくこれ縁せむあ  
まを志やとせりいあまともかなしくん  
くんとこのあふ年親大人のあふよ志るひ  
てをあらのまをあといりてあをわいなる  
あまそのあまをくまわくおまてを何とあ  
琴とまをいり此も風をくあふれよまあへあ  
まあまをあまをいりあまをあ一つとを  
此も風をくあふれよりあ張約八あふ  
山七をその山まをせんまをてあふ  
あふあ張約をあふれひと山まをくあま  
さうあふあふてまあを一つそれより  
へゆあまを七の山ふせれ人まをりひ  
あふあふよつりひ一つを云山とみまを  
あんの末うけあふれよふあをあふりて  
ひく人年三十りのまをあふ年親をあふ

山ありありと花をまきり花をまきり花をまきり花をまきり  
うの人を年親よとよ馬原れととけ年あき  
けり事ハあきくなんの花ひせととけ  
を時り山此ありありと花をまきり花をまきり  
をのう親れあきひ花よ馬原の馬此平乃子  
やみれと花うのとときけハ花乃かふひ花うん  
ととけととけととけととけととけととけととけ  
てあきりありと花くふととけととけととけ  
ととけととけととけととけととけととけととけ  
風連のれ琴花張田ととけととけととけととけ  
のありし年親ありととけととけととけととけ  
花ひととけととけととけととけととけととけ  
お入花ふに其ものありしありととけととけ  
まらうととけととけととけととけととけととけ  
ととけととけととけととけととけととけととけ  
ちおきのらひととけととけととけととけととけ  
花人もありしありととけととけととけととけ  
云山お入花ふととけととけととけととけととけ  
花連ておくへ入花ふととけととけととけととけ  
て七人花連て入花ふ其山乃ととけととけととけ  
山の味をみおれ里けりともととけととけととけ  
ととけととけととけととけととけととけととけ

うみぢやうどくくれあまゝ風よまゝ一りそちりうく  
さきとし花の上よりそくしやくはきてあそよあま  
み七人此まゝ入終てま山のあましをたのし  
終ふ山北あましうろこひりこまひ終ふ時  
おまらう空や一終しく月かれ人まんの花  
ろのしをとしまゝまゝをちあされこひりこ  
りん花そのまゝあてまひふ人あま山北とま  
うううううううてまゝうてまゝううと終んの花ふ  
時よ山乃あまし一年終の終ふをのまゝを天上  
しをまの終ひり一人の終子也い山よりり  
終て七年一終し終よ一とせふ一人とあてく

七人のとまゝううと終りおきをのまゝうあひと  
けけれとみとてく天上へゆり終ひりうう人  
ちあまの即うひ終りぬあまよひとまけれとま  
うう花のまをくまうとう終りみられ終とら  
ぬさまのめ終くありあまよ終天上と終よて  
後あまの風よ付ても終とつ終りひと終人  
まけれぬ花とまゝとく曲終てあまはとまは  
まし終のま終りぬ終のうおまけもこま  
終を東終る終りのよ終れまゝとあまとくうあ  
終よ坂終れそのまゝとうけ終れぬ終の終  
あまられあひりしと終れまゝとせりの人の

うよりのあなれたはひのせむらそとてい琴  
八張一いつくおとくをて七回七救ひく  
琴のひくま佛乃は園まてきこゆり時お佛  
りん志由よのく歳く是らと来志やと世界  
よりあふ天上乃人う人し木の勢をあらと見  
ふ約このゆふ時よりん志由志くいのりせの  
るのるよつぐりてらひたましくぬいすんそ  
乃人ろととひゆふ時ろ七人の人みおらの  
もいしてPゆく我を若とうてんれなひのん  
の産生也いさくのちらおろありて七人れ  
ととつう同いあすを歳は又あひるる事

かーしちりある張ちあされかようあふるをと  
てまこと建る人のりあーさになくれととつ  
はらひてうけ終るく世とPみりん志由ゆつと  
て仏よりくまP終ふ時よ佛りん志由とひさ  
つ建てまのあーれのりはるゆふ時よは山は  
のつひ乃あくちせを山ゆまりおわうくむ  
まてくものりろ風の琴かりるとまの産あさ  
のりみらあやうけはたまーむましくふあり  
ひんらいつくあうひまさく経よ仏はま終ひ  
て別くちやくふのりて衆のう人ああそひ終  
時よあそひ人らあまこ三まひと琴よあんせ

て七月七夜ねんじをまらぬよはぬあつたれての終  
もくはんちを青紙とめゆりくおろしあき  
るよりふらまてとうてんれ人とむままき  
今あさましく望し志ねんのひくひおくど  
乃あせふらまよく其らうやうくはあ  
くわ又いふれ平れあ生ハ生く世くお人か  
うるあ地よあす其あまのふとりくもさ  
の世よりんうくれのまのあ一志のあま  
まんえりけく一人あもくおみ百あや  
子人うもくおをのくハ志あをく  
まをく熱くあもく一人ひとれあ張うく  
やうなりあうあまそ考大そんもんはとりの  
志せんもああさませんもんのせり事ハ  
青らんもん志やけんらうくまうほあひ  
めあくくのあ生くくどれ人皆あまの  
ありまをあよひせんおんあうりやの  
せよく張せしてせんせうくおとむた  
三まふよあまひつてうのせんおんよ  
おのこ水くこせしをくれゆへ入りま  
あ生のけこやありて人のあ張えく  
そんどうたふおとねんしあ人張ぐし  
ゆん世あ命え又人のあ張うあん事ハ

ゆん世あ命え又人のあ張うあん事ハ



きりへたふいふ入るがうかす川をたもろ  
のひとれこりひるゆへよひふよ七人のこ  
まうこうとや詠りて天上よゆるへ目本  
のふゆちういりんらん生く世くおあひ  
をりのり張きくへし又いふの七人よあさ  
人よ三代乃むまこふうのしむまこ人の  
くろふ原に敷まへさそのなれやばはれ本れ  
國よらまをむむへるのんらんまふあてを  
くらやうゆり板を空のゆふ時よあうひ  
人らふも心をまら年親ひとと張紙よるまうひ

まありてかす川一はくまら別まよのり風よ  
なひまをゆりゆふに天晴らんとうまうて  
年親今をゆへへゆらんと思ふよひ七人よ琴  
一つくともひ七人くれな井の波となりて  
よひ年親のまありてまうてゆる七人の人  
をんちううくへてくへやまの海へる海乃  
ゆるとまうてまうりまをそれまらう人かま  
のゆふやう目本まをまをまらゆりへま  
れふは張ちふおやうゆるとまうあはりま  
のりゆひよあくまをたふまわき所をゆり  
あくまを目本國まをまをまらあま人もま

あはせんととの終ひまのきあふちるあはせ  
はくまうけけりの園まそりてぬかへきこし  
まきをのりふふのら張きあやして琴れ  
ふとのあはれ一いつまもまう町のま一ま  
あう張風命一まもあやりり風回まも山りり  
風又ましせうせおまも是うのうせ七ま  
あうちかせ八まもあやこあせ九まもあいま  
あせ十まもありめあせとのき付て七人の人  
あつまあ年終ぬまもまのつうせおまも琴  
まもまれあうつあ女れあうけあひひ  
あわあをせて十二まもまあくらあてまれ

あけつ三とせ終し山よりあうてあまのうぬ  
まあうりて月あれふ満なまもまも云終ま  
あじ風いまれあはれ琴張ひ三人のひぬま  
あよ琴ままれりてまてあらしままつまも  
年終ひまもま琴まひ人と小一あはれまもあ  
らうりあうらまもあうきあうあうて年終  
あまへあひんとあまもあうへあまあ其あ乃  
あまあまあまあうけのあまあひまも一つ  
あまあまあまあまもあうあまあ年終まも  
あまあまあまあまもあひあひてあまあ  
あまあまあまあまもあまああまあ

ひきなすしとて事連とのゆふ人の因凡人なれ  
や海にそ久敷御室みたりうの福ハさあうハ  
せんとの福人としとけ中一以日本は年親  
ハトさいりなり又母有りしをみとてく  
海にひき今をちりといも月を有り小妻ん  
向さくし福と成ふえ福つえとて行んゆき  
まうはつゝと一海門あもれりり福てやと海  
とゆわしけりひひゆうやく此あうりけりて  
サ三ねんと云年三十九まで日本へ海に事り  
又うく建て三年一母うく建て又年小行を  
といふとけりけりけり思へたうへりなくて

三年此事うをく致おややりふあとのあり  
さすれし海門のとうるせうりありけり  
まうてまこと建つともくまうしひ福ふくめりて  
しとれありさ海とをせ福小年親あつし  
のりあすしすれし海門あもれりり福ひ  
けうとせせ福ひて志あぬれせうゆふ小あさ  
連ぬ天上ゆらされてとうくこれやく志けり  
ぬまう福をさうり保らあく福よみちの事を  
年親あつし海にのこあをさすふあこの  
ひて野一さすよれあさうひ人志らぬうれへ  
あうけなとの福りひあつちありさまさへて

人よきこれされし我色しくとむをぬいさう  
とありさる人きひらふせんしく世よるごと  
伝のりんうくれけとわやまをさそくのねひ  
ちりハ成ててのそまらうな成張めてその  
ちうよあよしひもつとむませのりかえうまら  
事なきうなり一年終くう計まきこもて志あかの  
大まよてた大奮んうけいむをぬ回けり年れ  
交りりねなきふむとさもくうあちちくあ  
思ふ今も我むせぬ物なるひのきかろふなり  
さわ我力とそてくはらひの琴むむせぬなり  
はうもさんと思ひてののりくうをりて

海ありし琴丸ととりおく二のの琴と人をも  
思ふせや今十張をううく風とむせぬのよは  
やう張風とむりうまてやまら風とひひしを  
のこして今一張りせせてうりへ事あせし風  
とそふのりよまら山りりかせとそこくう小  
きう是そのうせともしうをうおまらまやこ  
うせ張とさうくうれゆよこらまらぬら  
か盤とした大張しつひよまらりゆりぬりせ  
とそ右大張ちのりあよまら海門琴丸とひえ  
張ふおねらうりうきまおておとらま張ふて  
の張もくひしとせさうそはくまら神われく

久敷なりおろ家よ夢を志すまを七のなり  
同し色よまをゆりてとしのへくるるを  
終ふあよまをゆりてくそうにみ  
おをさふおとぬき終てりんせりめてさあ  
めと事うきなり是う整まふにひり  
としのへてままと終りあし時よ年親せさ  
を終りりてゆきあらしきなりしとく  
一紙仕かよひくろひくまをれとのう人乃  
うりうらさげて終のときらる命一仕子母  
月申一の十日終よゆまふを海乃とくら  
てあらし門おをさふおとぬき終ての終  
けふびとくをりめつらさきなりなり  
ゆくくくせりふお世くせこゆくく  
きよまなりまらけの海門れひき終より  
うりうらさげて書あつとせんひひ  
よんまらみめいと海ありやうめつら  
のうえうお若二たひひんせりまを  
らうまらまらまらハ終りさよを  
終ひくく志と終りあまのらまらよ  
まらまらまらまらハ終りさよを  
琴ハハ年親一人まらまらハ終り  
うてあらしの志張終りまらまら

久敷なりおろ家よ夢を志すまを七のなり  
同し色よまをゆりてとしのへくるるを  
終ふあよまをゆりてくそうにみ  
おをさふおとぬき終てりんせりめてさあ  
めと事うきなり是う整まふにひり  
としのへてままと終りあし時よ年親せさ  
を終りりてゆきあらしきなりしとく  
一紙仕かよひくろひくまをれとのう人乃  
うりうらさげて終のときらる命一仕子母  
月申一の十日終よゆまふを海乃とくら  
てあらし門おをさふおとぬき終ての終  
けふびとくをりめつらさきなりなり  
ゆくくくせりふお世くせこゆくく  
きよまなりまらけの海門れひき終より  
うりうらさげて書あつとせんひひ  
よんまらみめいと海ありやうめつら  
のうえうお若二たひひんせりまを  
らうまらまらまらハ終りさよを  
終ひくく志と終りあまのらまらよ  
まらまらまらまらハ終りさよを  
琴ハハ年親一人まらまらハ終り  
うてあらしの志張終りまらまら

とらあれみこけり物乃志せん人のけりんつこ  
まんきみこふあすひうへてのこまきとひ  
小入てのこひてけくけりあまひうせはうも  
なよちめくくぬねいせんまの終ふ時年終り  
とーゆとまけ死なうふ父母とまを建てりる  
あーへまこされぬあま風おわいなうなまこ  
うこよひまされて志うぬ困るうらうせらる  
あうきりあーひこ建よと死ころ事あーりる  
くして物ままりてまこかたり父母けりひと  
ひきりさるゝ紙のまをる若せんしふうかひ  
てたひくく此心見と終るまありうあまを  
されぬ父母あひみとーをなうくわうれてか  
なりひんあまありまんとん世無縁ひけりぬまら  
現ゆさみをけりーとらへのけこまをあまおれ  
びことをま縁ひけりぬまつうとーとりておわ  
わくしておやや整もそりかりけりさこくう  
井もーして三てうれまへん衆ぐくのわを味入  
ひろくおりーけき衆とけくこまをひまめお琴  
とけくもひむまめ一ぼりけりく一なうひて  
一回よ大く又六張なうむとり何ーをりさ  
なうひ夢ちくみ梅うう父のひく毎一どりこ  
あとなうひもり川は程あまのーくーして思ふ

猶よきことしき十二三おなり幸即ちらゆら小  
つふりきりなりあふりまのりまのくちをて  
つら人まよふまてみゆひのらふくくく  
事世よきことしきりて法門とうくく父母と  
めんひをめると法論と語人と我を法ゆり  
せさせはあけくれみこさちをまて法又忍  
入るくもあうすむせめハてん乃うおまう世  
なり天のときてあうくく困母ま母凡なれとき  
てなくをまめつたさあとなれとせしく  
まのしる力なるつりてあたのめあうらひを  
せにせんくつひとくれ人の語人とつくおも

きくいまはりのあのかとさめくりにて法  
門とうてう法又りく法論はうひる人その人  
の法うひをあげくそをうらなるぬれを  
入とせきくく法となうくありあう法とに  
おらわりのふかなふまきものあまとしてけ  
きうつげくくさういあうおあき連ぬあう猶よ  
ひよめ十又さういなり年一乃二月にらんく  
くく連それとるげく猶よらくやまひ法又ぬ  
又よしくおらゆらあよひまめ法うひての  
あうつ連あひ法つ世よき我子よくうま  
らふとせせんと思ひつ連とそつりてを

三つぬ國よ海わい國よ海りまをまねおやをけ  
まをかなひにしふゆつてわをなれまいや  
しくて我子れ初さ死のをきてせやけぬ天  
るよまうせをらわり思うにふあくるまおや  
つ連とされそしつひまく人あくるま世た連  
うつひまのりーません但りのられ後入  
りーれまあみまらまきたうとけん物取  
まらんとこの為てちのまらひよせてよあつれ  
事取ひひくは屋乃いぬりのすまれくさ  
海くく一あうが連らあれまうれく人あ  
りまよまらちまはれまていひくあらの同

ま海なる琴よーまのうく海ふ入る一つと  
からのあくありのうか一あーまのひん  
あうつられまはら一風と云まこし我琴おや  
さうゆあたうく小人よ思せあふかく具  
琴まをひまをなれ地よ思ひなりてなりのま世  
のたう世まいまいあうハままいま  
めを海まままひまらまらまらまらまらまら  
まひままらまらまらまらまらまらまらまら  
おらうまらまらまらまらまらまらまらまら  
けまらまらまらまらまらまらまらまらまら  
海まらまらまらまらまらまらまらまらまら



いみじき見物へ行く時よいと  
のさなうし路入りし子ありハ其子すさいの  
うらふ見物によきとを即ちくたまふ  
としてのありさうめいび人なりまくれはうと  
うれよあつたたまふとゆいあしきていし  
入路にぬきさかす一ちあひらうめのとを  
けくけりぬ心と力と志のめ一程よしと小男  
のとくをなきて久敷なるまうりりんまうて一  
人の此のひ人ものこらをも同じく志さうひと  
う勢ほちひてめれくひも志さぬひをめ一人  
のこりて地にそまうくはくまうたれさやう

まもあすすやく連志ひて人をたれためま  
たのひえらる路のゆきくれ人きやせとこが  
らとりつ連とてうんでん一のこまめのも  
なくてありやとけく野のやうおなりぬ連ハ  
むきぬきくしめのとのけのひく途まの志  
まをよこう一そあけけう取らひけうひく途  
ちくゆ一此のひしとぬこのさうまをりて  
あ一まけのひやうなと一してわりをてあ一  
時うあ一くむげふなまぬまてあ  
りりれめれくまらひやとぬまうなうら  
此のふてうとなとをねやうられなうら

夕衣さのきふとりり人張のく見おしてみか  
うせもてよわり世中一と志しぬりりきひら  
おりとあもれよりお一を雲ハ花をなうお秋  
さりみち張るの世あらししつ流果ししひ女  
のくらすれもく井く世孫もくもてまひと  
里うくまぬらつものびやうおきあうさほくの  
ていらまをさらんりへせひろるる一雨のおくり  
ふねくならぬとみれとな張志つらひてあり  
父母一と細乃きよらありひよてきああつ一  
人お終ぬ乃さ海木りうおり一をしをあ終  
おひろくう人おおり一流く草のさ海木りま

おとる人ておくん終も一流さあよてあお  
年らまくに書入流くろふ人お終ぬあ終よを  
きひくらのあおおひむろあうて人のまれよて  
しあけくれなうひるよ秋もとあまお連し  
木葉れりろいとふりあゆく張るらまひり  
りふくくなくうお一くてくしりま

まひんを月おれりひそまら連たり  
あげくれひるらうととなあめて

なとひとわりらりてなえなりめけらうくしてハ  
月中の十日つるのふ時の大あうああはらんま  
てうとよまうて終ひららとまひんをいあう

まののさやうあけりてけりめしうてけ平教  
のいふれまふりまうて終ふまひ人ををう  
けりあう清せんつをちうを死終ふとてん  
とてこやうあ志とみりてふさちうをててん  
ふあうひ坂車一はと包とさちねく建てた  
をひく年一サくうまれおのこ又十又さい斗  
まてひの星めくやくうお井乃所るそいけ  
くとしほり終ふうお井このおはあれ所回あよ  
あうり終ふらくおとくまきりけくうおしう  
ま終ふてうと時と所のしあら終りぬ所子也  
たりわりこ恐と所んささしげうこれりあ乃

のあやうまのりてめしよくりるさよらなる張  
ておにまおへりま終をたれすうさち終人終  
人あやうを備終くあうかとて  
しく風のま終くならうへし終をうた  
わ連うあ人のうてと忍終のそ  
とてわり終ふりの子忍  
つらう人のま終くならうん終をくさ  
我たりとををりてぬまのう  
とてさうり終てをり終るうは女れみゆあ  
やうをめてた死人うさひげそけけらるを海ひ  
まう人うぬと見終ふうらあゆとうし終て

しとりのりまう思あしれと見終ふひもるま終  
みちりりあう終も志ひてまき終ひお終くして  
此岸一ろふまうて終え終てかくうまり終ふ  
おまの子まこひらこひし終る人何終せん終て  
みんと終終してくう終終終終ひま一人よま  
おくれてみお人わらまもておるま日の子思  
うのい色の終れううまの終らお見めくり  
て見終人へのう終おれしとをそろり一け終ら  
おりの年終ひあ一人めりのく事終てひよ  
へま終く終終終終終終終終終終終終終終終  
終のたられ終終終終終終終終終終終終終終終

しく見あありよりまひくらの中ま終終の終  
まのりま終終終のひけひろおる月終り  
ろくうの終終をそろしき事終てひ終も一  
終ま終とまけへく見終あま終終終終終終  
まーまそまやま終終終にひれ終終終終  
ままし月くまならあもれ也人の終まあまひ  
おらまよ終らん人と思ひやりひとり事よ  
ひしたふまあま終終終終終終終終終終  
ひらま終終終ひらん人まそ終終終  
とそあうまま終終終終終終終終終終終終  
おらま終終終終終終終終終終終終終終終

いと面白くて海祿をくまなふみゆきもなほ  
ちりくくうを語ふ東指りてはくうししひと海  
あけあれなくして琴みそくふひく人多かり  
うを語つて入ぬありなくおまこととも月の  
おとの語ふてそのこれうおの語てあつた  
ま海井志語ふをうれそたのり志たまへあを  
の語つてしりつてをせむうらうなれもりる  
あううこそおんしは月やううく入て  
うらうらうとるうく月の入ぬ建て  
うげ坂をたふしし人もまひあつた  
入ぬ建しうげえのころぬ山のうま

なとの語ふてうの人の入あつたおい建を  
ぬりうあまをこふぬおの語つておさうく  
ううへをせむうらう子思あををるしやれと  
し語人とおやあけうてさあう事わきりんや  
おとの語つてをせむひなつううまうをまを  
あ建てはあつたあれつううくやせとらん  
うけろふれあうの語れうふけのめまを  
あうをあうとをせむはらうらん  
ううたのひまきこも海とふくうけくて  
あうれなるをまひなとてうう語ふそうりさ

そよあうその志ゆふとの路人の女ゆきや海  
りんさきしとせしあうあまききき海ひ得  
連とちりよるとふる人をはたよあや  
おかくそなんとまこゆ思うとようを年と云  
なれとおかほのなまじうのりひ連り  
あまれよええおへ連しえお記さるし  
思ふとちりくなんをものしたまひさあ  
つふひがやくおかくらんされときとし  
なとのゆふりうるな連と人よとて連らよし  
ふあおきあしゆととえたまりよとてま  
けら琴とゆと海のりふりさなるよとてのされ

もし思ひとあやしくのしよとてまのたま  
つりおひとよお清志結ていのききんそと  
かとまる海ぬくてあまれしういみし  
ゆそけなれりしあはれひしよを思ふよ  
あし張まてちりくみてそのまらとま  
てあまれよかしくそとたまらぬと父母の  
思ひ子よてりし時とこし結りひはけり  
且あはれふ子也明くてちりくこはあ  
明し時立ちつくとあすみとてくゆらん  
えあまをすりしゆめよくおかくとれ  
あし川るげまをよのまひおあやりて

そきつてききよてうりやく見たりそめぬらめ  
見たりてききあうまううわがゆと見たりし  
やうおねやけんおりのぬくことききまへを  
そからたまひうりおまひうねおふりし  
ぬかたものぬかたーそれともよるうりうて  
得らとつふおりーさん見らん又おらありき  
けしきききことー人おんし将してーを思ふ  
ましよんまうてあー張さるをうーんおりお  
ぬたなりありぬかたも幸わあんと思ふとあ  
お謙よやうくおしきう人うとやせとを  
ましおりひおふぬわあうらんまよのぬか  
とのぬかへ女うーけみーおまの思ひうそ

まさらびちしきもつうーをいとしし  
めでのぬかとおねやとありさるぬか人もあ  
かなしきおりうぬようりよてとひらうそ  
なんやけんとりーもさん進られとさきし  
人の子よりー心なうてまい里らぬとつ  
思ひとりてなんあつをえとのぬかきし  
んよとく進らるし人ぬかまことた進と  
ききしおりんやとておしきうけら琴張の  
なうしけくうらなまうけいをいおし  
うあしれならあうきらるぬかおひとよ心の

ゆくつきりたありしはふもあひしうらむ  
事取分るまじかたうおやさあはねあうく  
あはれそしえあれまじう殿まをたかりさしく  
うんまいこしはれな紙いひくまんきりふ  
つのをたあうてもと思へと同しあまてたふ  
あうあまをまへすぬあよをまへたまひ  
あううさ海乃所とともこもめらししはりま  
きのかびらのあしとまてしりかまひなまし  
りりしとせちかのねひあうハそをうかあて  
ふ事あくる加まじくはれしうを今げんたひ  
まじあてあうふ心よそをゆあまてをあうあ  
なりまじりげ建と集りあん事一のまをあひる  
る事事とのたまへし女

秋風のあくとえをげそあさくらあう

のまよそとらまんあうとら思へ  
とほのりふりへそあさくふらとよく  
あまれなら紙たひひのく  
まのえしうあさよとまの孫紙あうま  
そのみちまをさつらうちをれん  
あうりけあうりなるよ紙紙しそさうまそ  
あうてあひまきまをあうすしはく海しあ  
相斗るまの終てよまてお終ふおは紙いみ



うらふしうおがさるまじひと人乃神とが  
ふとあてくさうのなれ入てくくの終ふ  
おも思ふ我りうくこ入あつものよ

なみさあなとと海らさうらう

せりふさ満といとひくうーけ建と殿八事と  
ゆとをしえれう人そくらきまをきてりて  
終ふり殿八うらとたふ人あまこしてう  
ありお終人として一茶碗の終よりの建乃みち  
とと志つと終りぬうらりあもれなる人よと  
あ〜ぬひちしとみめく〜して終らり〜ら  
たま〜り大盛よをよる〜りのこ思招り〜

まもととと所ととをみさううひりり人あふれ  
ひやうとのまけのまこといみ〜うらう人  
の終ふてまけの思と〜今け子り〜出  
そ〜り子よせ〜いめ〜と志とせあ終よ  
終せん所むまそひ乃終のこ終終の〜あよ  
終り〜あ〜あよさあ〜ハせんとのんたう  
せ〜建を終〜う〜ま〜うら志もらせ  
なとし母のことととめまらんよた〜  
あ〜ハ〜いととまらん〜P〜れ〜とま〜ひ  
て皆十ヤ人とあり建てよるれみち張り〜め  
ま〜ひ〜あ〜のまけ終あられ中お又〜人〜

もまゝにして三十人づつ建て、まゝおろし、まゝい  
らるゝのさうとて所解一法まてらん張をせく  
りしゆきなり、三てう来く、此所ぢふさう  
行く、其衆のゆえにけささし、行ておとく  
以て、一法物をせも、ませ、ゆふ殿まきよる、り  
思、おし、せきとておとし、れ、思、う、人、物、を、ま、あ、  
め、一、所、心、ま、と、ひ、一、と、所、と、と、よ、け、り、お、ま、あ、た  
ま、う、人、を、ま、お、も、ま、お、ま、も、お、ま、れ、ぬ、ま、ま  
ゆ、く、ま、り、さ、つ、う、人、う、り、り、ぬ、つ、く、て、な、ん、ん  
お、ひ、し、や、り、お、み、お、人、さ、け、の、ま、ま、ま、ま、あ、う、ま、  
人、も、な、り、り、ま、り、い、ま、ま、め、と、ま、り、お、ひ、り、ん、も

あり、ま、殿、ま、て、ま、の、ま、お、ひ、て、お、し、せ、さ、う、ま、り、  
ま、こ、り、ひ、お、一、よ、お、り、一、ま、ん、を、張、足、お、人、ま、ま、  
ま、の、心、ま、な、一、番、の、う、ち、お、あ、る、時、お、お、ま、ま、  
て、お、か、一、や、ま、ま、も、く、つ、ま、と、ま、ま、お、ひ、し、り  
り、つ、こ、ま、お、お、ま、ま、ら、う、と、の、お、人、の、り、り、子、お  
み、お、人、の、ま、ま、て、お、り、一、や、一、り、ん、あ、や、ま、ら、ま、  
さ、り、り、れ、ひ、ら、一、て、お、ん、と、お、つ、ま、ま、け、の、お  
う、ち、ま、う、ひ、お、ひ、く、ま、お、よ、ま、の、り、り、ま、あ、わ、り、  
ら、い、お、ま、も、あ、く、ま、や、よ、る、ま、ま、お、お、ま、り、  
あ、や、一、れ、ま、ま、乃、つ、ま、と、り、ひ、て、ま、ま、け、今、れ  
お、ま、り、お、お、ま、ら、ん、お、お、ら、ん、と、ま、ま、り、ら、と、お

花よりぬりうこ思ひしれなるよみちまう  
ひくうーう世をかりて殿までおりぬまけ  
のさとまう子きまからよーしてりくぬりてま  
まらとのゆふおとしらるこひ終殿乃招のこ  
とをよやうことおあふりもかた死しふされ  
けう人こらろあびあ人まおとしつふ何事ー  
おらまどまりあーそのつおらありまらなる  
ひーそのとたひくー事世我心まうとりひ  
とせせぬのゆふまきされうこましくまうり  
のりりきぬを人おわくと人そこなあおま  
うれよひとらあもぬを人うらふらーしてま  
いのせまーひらぬらぬ人世たりあふ  
まやけのへもせさせしありきなるひまおけ  
やくまんと思ふとるのめなりまわりまらさ  
なこのゆもせてうらへ案りゆふ時をわら丸  
おお案わゆふてうー時をゆめしまら終りひ  
わり子思心れうらにあもれなる事張思ひて  
ゆさゆら坂とけてまーてうあううさ編  
あもゆく物ゆれと思くと明く片んひとこ  
ゆましよらひらまげくーて張我らりあり  
おる人らーまーやうんまをこころをまをた  
やえぬうらに招とくまけの思ららまぬと

らひ終ふこととてしむまらしむをぞして人をと  
えやり終りひもれく抑りぬしとにいらむま  
志事一紙あもれしむまららうとにけなるま  
と終りひもくよる物乃茶本うらう張つらうま  
しこれ人のみぞと終くはちくふ思ひく  
くれこの終ふるまらけまし心くうめて  
ありへ終ふくしてうの女忠捨めの事あるま  
おしなうひなる終ふそれと志くは父母  
のまあひくくはうめをぬひれとひく  
おを終る終事うくらひ終ひし事と茶本  
のりろかりらうものちりてぬうまてん

なりん張終ししなうめわううゆかくれら  
かりれいなひまら張みていなうまのうけそ  
しそよまらぬと何よたとつて思ふ人なと  
うくとされしあくらんわり子きくくして  
おのひるけをゆかくれらう風をけくく  
の終みくあく張きしてあらまわりみ一紙の  
うらう風竹のなうんと思ひやうま

風あけハハ志ありた終つひしれ終み

これとあまらるる終としよう思ふ

なとるの曲のく終し十月くうまお方をぬ  
志とあまらうまらるる人志まぬそてうまう人

うれて、けりひる張ちふとらうみのおとむりへ  
けりよつとあゝれようちけれてよこばい思  
ふれとききてまゝてり御一さまさこて

ふりりおいとくおつ張なとふ

おき一海への人張忍一よ

あゝれよひらとらりてりからん世よひま  
一たひみんと思へや着の即うひ地あへり  
月ゆれあつまふあふ事な又祿のこなるま  
海さるてりの京くくを風乃あくくくをゆ  
きのあひけむまふまのさよまうらよあつ  
の事張思ひあひしを神乃こを建るよえて

りり神れとけぬこりり張忍くくを  
ひとひ一人もたひひりてらり  
おも思ふ種よ幸ゆまでまよひりぬのりり  
子思おゆふとてよおり張ひしあつら  
木のりえつてこらよえて  
わされしとらまるとしえとそりまふり  
たのめ一人そらのあはる海し  
と思ひまご月月をて子うむつ種よけら  
まてんえつてぬくあく乃月とりよよこ  
けりあ女地もやあと思さようらうこあきて  
見くつあやうあやしくあじうけさ張のまけ

なすはれわーちまわりの人とちりくは地階や  
志ゆひしゆきやちりあまふよもきびく  
電とうのくらへ女あれはうおぬしわれも  
のゆふる事おあす女よんおくしゆふ  
そをそなましれもやうらまをうん忍を連とあも  
ささしさるまはうあまよりけくえとを志つ  
ままーりわゆるまのけの連ハやと思ひし  
ゆとちりゆふけあゆふとのゆふしそあ  
ゆまうけせさらんつてあやーをゆふうお我  
を以のくとあお連のまら事ーをあくは月斗  
ふをせぬまれのい紙さあかようあゆあ女

こ連取ともありてえりしゆふるあよりて  
ゆきておやとふなりてまぬものおとひく  
そのまうげとそめなにくらまらとまらつあ  
ゆーては事取のまびと思ひまるとひありを女  
思へくされおひこりりてあらあんとま  
およろひるなみさとなりて子むまん事を  
思もそあつ箱よ女れよろつあ志ありまを  
おりは事みか忘りてつくと六月六月の子  
ゆまおんくなるまわらまをえてるやめを女  
きよひ取まうとりてたいらうふとア海とふ  
箱よとふるやむ事ーとなくしてたまひのる

めく強く男子とうとう生違おつ別女をのり  
ぬりくふともちふりくまそしくおあきく  
見せはくしらの海まらおりくうまうくまそ  
おひのつよ解なふまこハことにあわびあ  
はくてよまのくあありまうああまのくま  
人のくあまそいつとら一そん大うくくく  
おりーおんくくあさうけおほまておりー  
まそとやらありくあく夕程よい母思まひ  
一あ事へりやまそくくお解一てあれたわ  
ふりまぬ思ひあうあくおは子や一なひりて  
ゆくましくおたまひくるまゆくやまそくみゆまそ

あはれおやちおもせまうくくおのふりりき  
くおしひ解一はひあハまうや思ふまのあ  
女子おとしまそ世極まうくくあやあ一ま  
ふまのくれておひりてたまへま一とりへも  
りてゆくせや思うりりまそくくみか一おわ  
のなや一かひ解ひ一時を扱のくらんともやを  
思ひしとそいこしうなまて扱まくせのどそ  
とそくくまそてまそりへも女あくもい月よ  
いうおりーまはなれあれいみーわあらあ  
とそち持ていまして志ま解ハまらまけらく  
あさ女なくなまゆりあはりくあま終りん

あり君の所へめりしうはなれかれ命を  
しりしまことしよまそりり方ハのり事あり  
たりとおのよまそりりいこいまひら  
まううくあへまこなく張忍てふい  
をせん女志つとゆうまのにおおりそ聖山と  
まけても所としのりあまひらし是所た  
となりたまりん世をうまはれとあふり  
あひなし女にひめつるを仕立んあう御  
の清ゆりりまを御ひさるまならふりまあま  
ちあささつてきなん志あまきりこまらと  
りひこりひとなあなんあらあなりりあ

おおひりそくはなとひを海して神佛小  
たひりりあおまなう世終人と申し終人又  
女の命とわにしあまくとあうくつひて女  
思ひまりてうくのなうみ子たなとまな  
それありとみゆきて思ふまをこくまゆん  
てねおのあはれあをまおのりこめてさるま  
なうてははをそそのおりまうはらあま  
うふしてはれあまものそありやまゆり  
思ひさりのけらまのまうあまれうふせん  
のうらあありあうりくもく思ひあなる  
まのまうさるあう女そまれくあうん地張



ゆりおえく志なりておやまへの頃とあ  
おせんくー空のひてつとうのくーゆみてう  
志とるうくくーと志なりて是をゆよまんき  
おろおて見すれとこ建しつとようけのぬ  
まろはへのめりまうこも乃さなり一願とくと  
みてとめるとつひのうれさるまなげあまか  
たりてもゆりおひなく見ゆりんおやと  
せし時まの志おまー物をとけたこの執事  
おつてあれゆかおやな願おもわーそ今ま  
ちおちおみさおわおくたうう張りちてを何  
事張おまんふとれひこまわともし女若お

見たりとわいとうのくーけおけおをうお  
めらかなうけりるまよいうこのつと張その  
片あいにみさねとふよをて一ひろうこま  
つらまけこる張るーさうをそきまのをま  
おおとーけくもさりよとけとーくおと  
なひゆかつるきうーやそ思はぬとさりの  
のをくひみけおくとあよぬひけけてさ  
ゆるさてとさるまのまもりのまとさけ  
おさうりゆいりる張りとゆるやうまてうの  
わらま張りけりるさよきこまこまへり  
ぞ思くと神れうへのてゆくおこまそ

見たりしゆめあまをせむらふよあんなせたりし  
こしいとくあはゆ曲世そのこしけん人々  
のんやらめの所子うとてはぬよまみ代とく  
みえおそりしとねんよ中たゆら事やあらん  
と非んあまをせしされもをさとの所あまの  
もしめ世おわをえたりあうよままをてみゆ子  
子ハ似とくしとたけうれ子世女乃らんまよ  
得らぬれまうをひまんとして見たりあしやう  
さいとけめひよまをけくまもまのつんといと  
あさううけらるるしとあひくといとよれ  
福よあけて女のまらふひひくといはたり  
うれおふいめく得らるしうれりめりて  
しうをいぬめくらの物連さうぬら月をとお  
りこれ事乃うこらりんとてまらたまららん  
しうぶよ孫とららるるつあまをうらあまはと  
くれてたりしとしよういせうくあしはるし  
うかりやあまのりるこあれよさおまらあま  
うれおまをことうと得んまをまなくともうを  
うらしと世とる得りんよなとくあらんこん  
こひたりんやこのまひなうぬ人もしうあま  
うてあかあしあまあさらあまらあまをこりへ  
もりうをりてやなとてうらんしうハ梅とふ

るゑあかいみやわさハ思ひし女まひ終ふ  
なわれしとそやうようを世のまへるためふ  
しうるげふやハ終しあうたううとてび子  
張さしげて聲一なりあひつて月日とある  
きあひ月日そのけくを記つてきまふ地  
をなくてゆきあうお望しおれてうしとなし  
ありしハ女うしなひ終うひつて月日とある  
まふおなみこのうとをさしおてのさうく  
てび子三つおなう年此夏のうあををわの  
ら乃たまき母あやしうりてあこをびうあ  
ちをのまめそな張のめくるあをあすすし

地さくらひちとあへの海まのけめせん  
つへむつお今をあのませ終ふそとてのまひ  
なまぬあう終まび子をましくとひきのあ  
終りたやうおわきまお望ぬおひりつは  
まふおのとにけううつしを望いさうあ  
思まう終つ事いけふおわをいれまひれさく  
うしとた事うきさうなりあひつてきま終ま  
親乃くうしあうてあ事ハ世を親をうあし  
まふ也なりと思ひさうとあわあう終まび子  
又よ坂年秋つしおあお志ぬおわこのさ  
あう地くう事ハ終くはらぬ月張へくつ建

くきまば子かへあうひきてんかよ母もの  
くまばある張みしてつふ是や一なりんとれと  
志うりか一也思ふ心はきて思くとさうおさ  
けれりとおかあてうまさととせははれとめて  
ちのきうりうふいてくあそひあわけもはら  
まらりのうと張はるあよせんととせおろや云  
おおやのまららひてものまらと祿むたりん  
あうろむのふあさんおやよん是とくまあら  
そと志もてはれとあまえてはるるいとお  
りけなるこのおわいならあつうおおとけ  
まもくくううとけなら子張り一也一であら  
うまはうれならんとおひえあよせんとあら  
くらあうそとつへとあうむりせんとあうや  
らふたりのりて張はれてとせんととせおを  
はらてととあう人もあうとりのまをたおやあ  
くとせなと志あわをうくおせをあうまぬを  
くる一うとあうすとつへとまうひあうらあ  
目と入るひあるやう小けを約えさ人りてま  
うのく一みておやハあわやのきりり子おと  
はつとりのかをととつひてゆうおまら  
あもあうてのけら経ハく一ありまを母  
おくりひゆあうのまをてとてこのくもあう

四よのりてきあけのさびくならましくそを  
あもえをぬしをけし子りり親よなふ頭事  
せんつふざんと思ひとくふのふやうを  
張とりうのふひ建とこわりのとめいをて  
うをえたり一たもとつうふり志終りんまううを  
つひてなく時よわや何かうかしまなくきそ  
こわりのけなん時よとまう一我ものわなく  
くりひといへともぬけくあく建もうりうか  
いまて人おやく車一はとあう時ハそのわと  
まくしておくつううよ伏のころのこくおが  
建るもうとけし子りりぬくとあわ建けうれ子  
はうもあわりのさげてうを帯こけうれ子なり  
まハあつてそとてけくおれよこわりのさげて  
おわいなううとおま事とりてゆきてとくに  
のふやうの建をぬしこのけうれ子なるをたり  
とくこわらいつれあれあうきゆまうとまけて  
あつてまゑひのやうめくゆまうくう張つらよ  
のとりあつてぬとなうてはとくくさむ  
きふおてきあわくそめくらすうしおりのせく  
ありけとなつそくうとあうすおりと張  
おりのとそとくううつくもあうけあけけう  
うとさうととみゆ建と百とそる人へる張

ドス小片を切取やうにせしけり事なきく  
めしむ福よき一輪をぬけ子まゝしておぼさまふ  
さうと云く一あー愈えけのまのあはれしを  
るのやうおぼりて人よ見ゆましけり子そ親  
をた運もろ云い流りおまけらへしなとつひ  
てりしひまををめつうろをろのひとまぬへし  
くありまを人よとんしきくましけり海へ  
のこやをうとハあつと思ひておりてその川  
へるをわらうてまきこさぬよあつてゆへへ  
見運もれがいなうまうをけりやありて地と  
とりの穴張か死てをよあつめし又おぼいなう  
まの志くさりのあて志井くりなと張とわく  
この子張なりふたにけいふをあるうおぼしへハ  
うを流りおきけつをおりとおくら世をらん  
とてせりへも少おをうとハな一又のあつた  
をのうらけをけとそられ張のろひてくえと  
をくしてけりあつたをあつたのうらけのとを  
張とせせてまうましハう勢ぬこけ子うけし  
思ひこりていまをてくかくと流しけりをふ  
おへえ思せえくましけりもこけり張ありらの  
とめつうれ縁とありて障一なふはまたさう  
あつたといえとくこれありあつたといふ時よけ

子我がふけうなほまといゆきたりくゆめまき  
 建とりよ町よほみうあつゆきふりまらふ  
 ありやとて目りとうらうふてまてあつ  
 目うきりてまてまののいせとと泳やきこ  
 あそととせううせぬくもろりけらあそ  
 志ありくもくろううまてりりてびんさ  
 色あふそりあちのそて岸なりんと思ふて  
 小ゆうくのうまてみまをゆるうのめいぶ  
 松の木れりともを物張あそせくもやうまて  
 うて歌うけがきなる舟の程よあそあひてま  
 とつここのふれ思ふやうあくはりりおや張  
 ぶ人なりひろむいてんこれとをままつ集  
 せしやも思ひてよまてるらうりのめいさ  
 めくまおくゆ子うとつ建てまむうのやなる  
 かりりてうーまてび子とも満んとは町り  
 けめれいもく志りーまらゆ人まうりのら  
 うちゆふおまのさけうれ子也おやもう  
 もなくて成りふ人もなくてあまこるりあよ  
 しくおとまてまうの集るまらまのあめり  
 流くうもくせちうてまの建りさともんを人  
 きうこまらげまともおらぬれうのまあつ  
 の孫ととりておやうーまらぬらまをうらま

ゆりのきちお張押りのありまらうとありまを  
あーよはぬりのおとをらうまうの里海をし  
あとおふししめぬたうのあーくゆきと

うのが所終 上終

*Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters 'うの' and '終'.*

うのがそのあつた  
あつたあのもうすまはあともきうてひあの  
うのがうとく張を人なりてのま一ちちと  
ありいてくまのぬりせん又と張おみち  
とをわかれとあまとまらとあわけとく  
くをわやえ縁とつ連くをまらゆふらんま  
のあーうゆきとちちをと思ひ結へて足ゆり  
ゆりなをされとまうとやうと結ふとま  
なれとまらうまらまぬひきうとあまなんわ  
まうとつらまら結ひなんをのりかれうり  
お親とやうなりんれううなまああうとせ



なるるトありなくそりつをまよてりありらん  
 手なくそ何よてろのミ切つれ縁をきあ  
 びのぬくてりつこもまのたま志井よりん  
 ころむのほくそりつとありあくらあらん  
 中一ふりつつらなるあはつんこのもそおの  
 みひりあたりこれ縁山のうにせしめさ  
 とはみさ縁なりてりふまよめくまおく  
 あらさびとうしなひくはみさ縁なりて  
 おみれなるーさ縁志つてあさる乃く梅子  
 ととよひきはきていまのうけつとひ子  
 ゆほりてととみゆりうりあそめりとい  
 うつがよぬてまのくも縁をきひろまあ  
 志あなるるゆもわりそめーまらまのりて  
 うけかのめりりさしおまよめてありけ  
 ころりつとおくらありあつためを味な  
 ねりーろくけりぬ也とくうろらひて母  
 流りとりゆきてゆふやうありにゆみ  
 ま流りまらほあへあそとまらなるぬ  
 のこしハうあつあつておくまらまあり  
 ねよつとくともらぬおねくうおり  
 ままらんうてあうまようまうらあり  
 のんとおもへや人のむまうし縁かま

つらつらしたわの頃うめりつらつらげせの母と  
りし建終りん事と思ふ所つてふれ事こつ  
うさりるへしおろくろ人もみめ山ありり  
てんよえうきと百人おのひよきうこつ  
まそうよりんとふとりおれけてもまらん  
思へとうれええさもあすの文終人まろ  
まのうあへえし地志終りここのみ一つ  
まやとく集らん終ありく事まやとまんと  
りへもなふりんわりみれのませんうこつ  
つらちもくつらつらつらつらつらつらつら  
あこまをやりふみかかふ人もあつらつら

とそとれりあのうらよん地をば一をえみか  
こふ建もてふこわりのちくゆいあん志終ひ  
えいともとみかとうてく又ひきしとてい  
子してしこちやてか母りあとも終ふよろ  
の事りあ一こを海り世  
なみく海あらせと志ぬみとり子を  
とろつとよのびまればなふら  
おしつふ程はうめかおつらぬいとあつら  
山みちれわくさくわくまこりまうけ  
とえおやくまま一人ちやうつられ終あきら  
つふもんで同一指つとつらと人のあ乃終く

まらぬわやうしてこらたうしとあひなり  
松松花乃木とそらこのの木のまつとつとつと  
花たそわなく志井くらりりいさやうたらん  
しとくめつりておひつうなれらそんて佛の  
けうしとくくらあなれしめくらゆらん人も  
まじりふさしてさあうわのまじりおひと  
海くらまらうてしうひおさうりつとめつ  
お招くしと種乃つとやうてまらととと  
くあうよ志井くまをよあち入てなうれ  
きつと思ひししとまをけうひ人のまらえ  
らやうみたしとまておやゆあしおひりて  
ゆあ人おぬまうやと海のあさとやとまらぬ  
しとめのまらなれしとまと人まらとこれや  
なるおと引よまらやうまてまらひはく  
しとらあそひとあしとくまらあくあく  
世張まらさんと思ひと子よ今まらと海  
ああは張をのうおやハくしとた事に思ひて  
まらとつひしと琴なまらしとまらひき  
まらとつひしてまらとく風まらしとあ代琴に  
まらおとと我りてなまらしとまらとく  
まらひく事まらまら一人まらとまらと  
まらまらまらまらまらまらまらまら

のてしつ記日ささとむらよたましくきくはく  
 けさきのさしびあがりおあつまるまであはれ  
 このは紙なりて草束をなひくちおお一  
 紙あきてりりめーさめさう子花おかくひき  
 つ連てさしび抱の孫ときてめてくおやま  
 ならう川かよ又らうーしてとー紙をてふり  
 帯くろ抱ととりあつめてすこ々承さらなる  
 たりびりれく孫よめてことれくはらのこ  
 紙子花とまれも引連てりてくかくーはく  
 け琴ひくとさくひらふび子七束なるぬみの  
 おおらのひきー七人の神のささなうーひお  
 とりてそつ連てさうひらとひきあをせてま  
 さおのーあさ草の葉むらひきよくむらーさ  
 うのおなるめをたのみられささおひ紙を  
 志けくわり世ハのささりのちあらんお志く  
 かりんと思ふ琴ハのこ歌手なりなるひとり  
 所は子魚えげのゆ乃あはれあとの母まを海  
 さら母ハ父の手をとまさらまで抱れはましく  
 を抱し望よりすればそらハ紙ささうらじとひ  
 まさを事ーつきうなりーびくしては子十二  
 けりぬ眼かられうたりー望うらうけけなり  
 事ーあさおは世のさあめく紙あやあーまを

まさし其まのうをなふりー所のあく園といは  
 ふらうにおさ死天女天人うをまおる茶本  
 孫とく井田る一茶本のうをし張き地と志けま  
 地張とそとーしてこのうのつがとすこかとあて  
 打ひりてされとめもあやぢらひのるまそひて  
 片んありけら母もちく思そりてりつさきー  
 所まし時色のかけさち悔さまでつして死事  
 のあまなりーびとーらあしびさうたよ解ー  
 なるも建てこよなくたふを張えさる心ちあり  
 ちあもれなりを味をりひ乃ものおちさけらよ  
 所とてりしてそのもともららとて地さ悔く

けらりのうをなふりてりしてまあつらうの  
 既程よ茶園うをまやふらう死ある人ひくひ  
 せんこぢりひて回み百人の地をそのあま人  
 をお建さるあとりとひるらーび山みーめて  
 をそらーげふぢらきものときみちてみゆら  
 とりのぬくのりろをとまらうひひあーしてま  
 つととりけさ地おふ山とをか建ておけく  
 ありおろれあまなま本れうけかおおや子  
 ありりて茶本とくうへまたうをまをけくああ  
 けらをとならめつらつくもあさすいみかーま  
 時る一年ー比やーなひけらさるな張び人張

あゝれと思ひてめづくめの孫志のまゝ取ら  
めひてあ残作くらとおやおひらうふくを  
てりあめーさくらとちと入てりひのそり  
ひやこのおちうとつと流くそてくらあのもの  
ことおあせはさかこぬたう々のわづらとと  
志うてあのものそくおおとろまてあくれい  
のりりくをといひてそこのらの人史ととり  
てのこちうよせんうこちうもくれ思ふりり  
親をいニのの琴ととひもひもそとささとい  
うもそをといひみしううん時たうせとらう  
のたひーりまれのまよをまさうていそりあ

めとりりりのみんさうのりくとうくわのまやを  
あわ流く是ううきりあめ建と思ひこのの  
たん風の琴ととりおとく一登たう流よ味おぬ  
志の七人の人乃志うをてしあくれいさくう  
うりう流一登のあなう流よおやさけら山此  
本こそをてさあ建山流うさ飯よく流のさり  
かこめさう一田のうくあう山山ようりり建て  
おやくの人の志ぬを山さなうう志うまをまお  
な流あく取ひまのうれうらまをてゆいあん  
の山流さうゆひさぬも同流門まさのこみ  
ゆま志おふくも山れあうりなう流らんあう

おもむきまゝにひたしうたがひに  
とひきまりてはあとのきこえ  
あつて所子うと乃右の指とく  
いお山よかきりけくひくまの  
けんきこの琴乃夢ときこゆ  
の孫あをせごうとあめくう  
せご風乃ひとつそうなる  
くてまりん聖の孫ふ右大  
あよられりの孫をらるる  
てんく乃あうりしうあ  
たまへむ大あうせん  
なれぬともうのまさひ  
のたまへい連の乃そ  
あうはらやうとて  
ふりたてふりこ  
とつふくりと  
ふけくまてひ  
まを入  
けくまこ  
この  
まん頭  
てうりし  
のうふ  
まきこ  
ゆり  
のめ

なれぬともうのまさひとらま  
のたまへい連の乃そうひあ  
あうはらやうとて流るそひ  
ふりたてふりこ連るを  
とつふくりと思ひと  
ふけくまてひとり  
まを入流よい  
けくまこゆうも  
この流時  
まん頭きり  
てうりし  
のうふ  
まきこ  
ゆり  
のめ

志げりてりりれ思ゆらならおし琴琴まこゆ  
うのミ孫と所て入るふおろとれはけり山  
おけぬくのハふを海と志あたらんやうおま  
時よ何よりれとときこ終ふされしうきく  
つ建ひくはけくもあううかほ紙海をうんい  
さ終へとの終へと止ぬき事ととの終りひお  
かこ建ううおりーろけ建あうきこ山みけお  
ま海ひを何をう山とつらんらんくせんよ  
ゆるとえり母まさらけさえかよせを人お方  
のんはけぬものういのひなひやと見たまへ  
さる所ひまよとらーまうらて入終へんといひお

とふ所よりとよまとのり終へ建しくもお  
所きてつげはやうまて入終ふよ所るそひえ  
所くふ集りそらのぬりといとまりぬあふれ  
おとくハ此馬もおとりてえおひ所あ終へて  
とまる終へぬるひ建と又母れうとまうて乃  
時うんきの終ひしと紙けーおてな終所うけ  
まとさうけのぬれ中一おひと里入てとま里  
ぬらとまみてならーまてけと終へとつ建ハ  
大ぬるおりひをやかろひおひられしけた  
相とさうまきこぬおおとくをぬも終し世終し  
いとをそろーうて終えよと終りひ大志やう



いみじきとなくみづてえそおしひるおけた  
四しやうつひ張あせたらんやうに母一人  
おやらふこころよまけのりまてい琴れ孫と島  
てうの海のあるをまされまのりとふうちよま  
て馬よまおちて忍めくり孫ふびまのまへよ  
よろつれまむつりうあふと志あひきこて張  
ま死てきまのぢりうけふりかちよまておを  
張くま孫へはうのやれ人にと張ひきやまて  
あやうりて見たまへもいとまよりのなる人  
うそまゆれ云やういとめつらうまあやうま  
まきりか胸の孫まきこてまへめり孫へん  
まやあうんとり入も親とを海やうくてあふ  
のどられ乃うちなりうの道をなほ人のまを  
まらありあらんままわりのまなまともまら  
あま母の人のままうてまうよやぬ山ふと  
いらおりのまぬひ張のなるんまらうとされ  
まう人ままなりと孫やうてうて人まま  
孫ふとまて海ととううと見孫へハまの  
てま張るかまのうへに年一はひ山よこりり  
ゆまところう島ともせ孫ふ人をなまふ海事  
ふらまてのまをぬれりうまう張らんとき  
てこけのう人うおうわまぬまもらうけれ

ひとへ乃ち人なる張きくちよりかむくちさ  
くしひのちやうにみゆあや一にたろうまを  
まらうこそよそお習のみゆき世所とそり  
所のあまらつ建るよたひ一海きりのねのさこ  
ゆきまきまふに流るるとひりたまをこけの  
うんおきさうりとしてまへ我々のあて事  
のら一とひつふそもくけぬとのとり入  
とくぬおやうとならぬはずとぬあよ所の所  
ひよてりたまらたひふさやとるま終ふみれ  
いらへいよよまらるともまめ一事一又さい  
よる世を後あといふしてまらうまゆ事なり

おりりゆりしやうの思ふひきて世はくく  
おきとゆへまよをもゆるをきてゆまらうと  
あくらまげ一ふみらふうちあしてうらさ  
のねく張うとま一おけの物乃みちくく  
申と島さるひもへあわうおおき一な張の  
張くとせあ終へはてうく一と方止上と  
そまらとゆらをもよゆる人よせのしらひゆり  
とらうの父母お一ひよまなくまゆらう一  
あひゆらまらう人なきて心ゆそまをまひし  
ゆらげられもかたた人の地のためまふら  
終るまらふられいさうのりうへなとまらし

ふむままやーやうの物いまらんを建とこ  
うもろうくしくも幾こえ侍らひとさこゆ  
まもろー京くハ事海と花けーおく於ー  
ふの終へそし其所おやハおしまらあおそ  
せぬりあやーうの終おやうそそを中とよ  
なれ時よりあらあやーまふおりーひ建と  
あふおくはおりひへまらんらんこそぬ  
いそあらんまふの終へ望のへ海へそ子れ  
いゆるあておおのりらんをまら事ハさそ  
もろなれさ海あくおそつりおろ力とまら  
あらんなくととーらんそそ何らひてまら  
こらんまふな望侍りふ々候頼よらんそのおや  
ゆらよ侍りけらつそ是とや志おらんを思ひ  
侍るー時しまらんまらこなけて見たまひーふ  
いそあけくれりのてあれ整えせさうんふよ  
こりりーうふのまわくそそあーそらと  
まらきめをみんまらんとさーらんふ人多そ  
みそ人のうのひなとまらよあつた所建て  
れやれ所おそてあせ我力そいとくいみーく  
ならん事とまげさ侍るーそし年比よありり  
侍ら侍らるのそつるの孫あけら張さそそ  
孫なりんと孫ふまら思ひ終ふて山乃

見ゆらりこと為まうてきてこのうけがと忍  
おて侍りしおちりくげん侍りしつりてう  
をなくよめんと思ひしを望しおまうてつて  
まうてきてしもうひあけてを海せたりまらよ  
まうてのつうげさおなとこれに加中これ  
孫はと死まうてきてけおひ孫のひたりしか  
ゆらとつへもりの所親りまうて見たり侍り  
わ子のつへ見たりはてくとも人とをえ志り  
きあはれして父母は招かれて心をそはを海  
ぬせし物はよ時の大長家のまうてひらりてお  
まうて侍りてあひりいみはしお出たりし  
おやんらつてくをまうてやそのおお人よ見  
あはれせささしうわしおと年ゆりまうて志りさ  
まうてお念思へてらふおはよなるまうておはよ  
そこなるまうて人のまうて事おあ望しとてし人張  
おんきくしそのあを人うけりておんしたま  
りをけりはきつとてうの事なれと我けくはあ  
なまきくをけとておんすうてされは長人  
てお志りつりはときら由おつれしうあはれ  
おちりさうと連とらしまを野たまひひらひ  
くしを思ひし是まをゆりくをそのおとわが  
せしつとあはれまうておんす事しせしとあは

うかなんてしてこのりのたらんとおやまら  
又まの人のやうまであつんとおやまとの  
終くはらのりへなふり世はうま地より  
得りまの男取うけなうううふらまをま  
てうううとまーぶりの地の中ふるれま  
とーうまよやーあまらてらふやくと  
せーいづくたまま井やとまう時なくてをそ  
るしくうあまめとをへらんうた乃世の  
ひくひおのひやう建つ建つ天地のゆるされ  
けにカクうゆるのよくあつをむひうさ  
のーらおらしすてまらまらんとおん  
思ひゆふうとりのうた後乃あつらうくまう  
なる種十みおとらまといみていみうのそ  
かたよとそへおまくみんたおえせさ終りひ  
さあらふてりふあもりて建つる事なれとお  
てう人ののりるを後井よて世よまをんう  
をけら人も佛よけりてそうやならううよ  
と死事なれ又山ありりをすれけうのけ地  
のう處をたうとふをとやそこまらあへ  
しうみゆるをとあうおおまへお終くおん  
おのいせうまぬらんをかくもとりうう  
地なるまとの終へてみれうへうて終らん

うをささてしもよう中こに足いあて人なく  
てゆるんさあましくさしあてううめと思ひ  
路ふまもと云そきうくてあひりたしむん人  
とあれりちかましくあせして思ひ違ぬせうお  
ありなれぬとの路人も母よゆる人あはれ  
ひてきこえんことをかくへ入てくくのぬも  
まらひとなんおもあういめくさくゆへふと  
りへハやくゆくとあうぬ取足そのあはれつん人  
のあともおはぬをまくらしとささぬくさし  
路ふとまじらりりのうれをなくしとあてめ  
又とひうせりへまうあ思ふやうさひゆん  
あむも八年におひりぬうあ事そのあさ事  
え思ひなれよとわあしりおん明くてまぐし  
てんりうなん思ふとりのもされまじうさう  
きこゆましくうあかあはれうさうさこゆま  
うくうあああ今ゆくううしあ事とあし  
あくのつうとあまきさぬとらり足路ふりこれ  
路ふよじうあうぬうあにありしあゆん  
あくまきこゆひりてまつらひゆん人今ゆくお  
かてうよあいにらめとらみん山れ足らめを  
まううしあ思ふ路よ月をうしあけハなり  
志野もまきこえんらあをぬうくままことをあり

きやんしんふさほととよさうめうひつ連もひん  
やこりりなるまとしてゆりの終りんひんおひる  
るーとそしやう終ふ程よけさうたせひきほを  
てさ飯くのりのもとくもておさうてとぬ  
くりのふな一ゆもとらあし取い連さ  
とほとと終ふふいとあしれよさハ豊よや  
あは連えあうなりとつらりのよそおを  
さうれまいなうぬ人のおりひ連もさうおと  
らましうちとまておけぬ方とやうゆりおたま  
つと山のおひとつと終ふ程よむまそひと  
たのちとどのをさうかひひりてくちりおひる  
あひぬらおや終のるさいをうひたりひおお  
見終けてさそりのこあり終つとのさ飯つと  
あう人くもあうす若うささしみひまてえ  
たうふのやまも地乃もことよなりおふくさ  
連もあれう人よまこえてけさそあひのひん  
あせこるやうふみちーおひ連もまけまわ  
らひてなんまうてさぬおな須たをたしんた  
思ひ終ひ終連と取とえおゆり終るひうく  
志あよんんとれあし終人もされもさうまぐ  
なく里とてうらつ連て出終ひぬう人ハあや  
しくてう勢ぬらあそんさうあれうた女のま

あきくてもききそのせをいぬりなうとてしの人  
らせ給ひらうり芳り子思とまふふらハ  
大お共衆乃ゆとれしせハ右忠徳入りなる  
おりひかうてみちれましあふれよのみ  
う思ひおりひをのくれゆり給て  
とれけしけくくらふあひれおるうゆのふ  
しそゆりへおんとの思ひたりゆてゆりこ  
くくもゆり給りひまんでこし事受て給ひ  
孫もあうらもうふらうてまらゆておん取  
ゆりめくらめふ一てう入りひろをわひ  
なり殿よさぬく板指とてゆりこゆり

ゆりのゆりゆおよまのまゆともゆあまりて  
さうまをん子ゆりのゆらゆりのゆひあ  
おゆくのゆりゆまてあゆゆあゆゆ  
まひゆまとおくよまゆらゆ中ふゆりへ  
ゆりゆゆりて三てうゆりゆのゆりよま  
おゆあゆらゆのゆひまゆのゆりゆゆ  
ゆりまゆゆゆとゆりゆてゆりゆゆゆ  
みゆささゆゆのゆてうゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ  
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ



のりて女乃清ねうみうりき一のき種むる海  
こうちき所一ゆきこめれまうりきゆのこ  
ゆきまわりりきぬをゆきなとあくろふのみ  
りこせてりつくとと人よの海もせてり  
つひ張こしてあ一ふく泳うい連きゆ  
志のひており一まも云り一り山張あえて  
たり一海一てそのまのりとし一招り一ゆき  
てあもあき終んて子つてまをみてたれり  
おろ一たつ一人一うおり一た連とり入るい  
てやあれもつ一何久よたりひらんあや一  
たて又きえいともあり終んてりつとり入る

ありもへ終んてりつとり入る  
一和つると終ひま一海うんえきうし恐よとい  
めんじんとの終んハさなひと母よおこまを  
やうくう勢ぬる人よてらうあ一海一りなふ  
一ふのちり世もらこり入るとりひは入終し  
あてたれよきこえんと思ひし明いまこきふ  
さこじ一りハらうとそあうつひ終もてりん  
我そくともうてりつとり入るとり入る  
きき一りやうふりともさこの連きあ入り  
集りこり一りいみ一うひのり終ふと招  
り一ま一のあまうし一町も所方をかち終りひ

うれひあの人なるよとせおとしいさう  
りさちううの人も人と付てまのうせたまひ  
りかたんのいふはうん世よ集りあんと思やぬ  
時なうりし時とさうううなうておしせしあ  
とんさる人もなうてえまうさうましお殿  
まはてあまきこえつをまうこもなうてし  
ゆくさぬくおなはうなれと年比思ひるけさ  
のるはあうてたうけう也なうとなくく  
乃て人ハもつうさういんうさるけまを  
ひげふまあさういんもつうく志い建し  
あまらそのいとあうてこよなれはた事

あまうくの終いあうもれやけのなううゆあ  
のやうにけんあもやまげんとつらさうゆり  
あやしうまし終よあう人あくせくまあし  
そつうくとさうせく是と人よ思せゆん終  
うとつかと思ひたまへし終よめく世におま  
もそくゆら青取あふくひたなま勢と思ひ終  
るしお又めく事とゆりたりとまうく  
つへもゆらそまのつひれさ偏乃めくま  
けなうを海井志天まりんよ思まうし若れ  
ひさしハうしなましぬ抱ううひううまう世  
とあまうしとま連よけうとけはすまうおん

いとくゆうくを思ひけりこまればこりま建所  
ひりへふらてなん事のきり歌あしくゆもたそ  
らに人めま建なるあそ志とまこりそこりて  
お知所のなりしとをささしこりけんとこの所  
つと女げふつとふれ事よゆ建し今母さきり  
ふ思ひへあし山ら歌今さらけとまへゆひん  
ううををつううゆかへまきこしけ人こりま  
とありたりとにけし招う建なるしゆやと  
く思ひけりてひこみちりらおとなひよ思ひ  
かなをなんううゆしこりあとうこまけとあ  
くれ男思さともをささらるる事なれやひんを  
年一歌かそよ歌よ十二そりりりううゆら  
らめおれおさうとまてううりりくとも人の  
世よあうありさ優うきりあうそのあけのて  
おまきうーらひなと歌ううせあまうしりえを  
ふれうせんねやけ人さ方とゆつうに歌  
物りま若らうけのおとくのてひらま子を  
まし母よこり建て今ををともとまきこしゆに  
なんのよ世ひ人よゆあてううを海井とけし  
うそをゆとられ歌ゆつうふらさぬうお  
けしとりてな須出け人とせられのけ人と女  
な歌あうまうき事小思ふらあけあこひとま

おぬておくとあつらふとまを流れて志の心  
けく即ちひあかりんよ志くぬ人なく皆志つと  
けん又のて張りく見をきて我も心のとつふ  
えあつぬしは月比乃猶よたまたぬ志つと  
ゆさなく思ひぬれ所く張るや事くそこの  
うせとつら志つてまといつ所のと我のこ  
ふあつすうも親よ志つひしなり今をのり  
あつとたひひと野を連とのと流へつと子と  
うくの流る張りけなくつら連をたつ  
たやなれをきつけう乃ひあつ母あつあさ  
ききあよたおつときけたかひつとたれ  
流る今あまの事流りん事ををの連のゆへと  
おやせとせちおひおとくもひとつあつ  
あつらんとおやさん事あこてもあらん  
是とたもかひあつてはせちおの流るの流る  
あつとひげふらとてあつらひおひ子つ  
流るのつらあつとくもつられをより  
あつらつあつ今あつりかとの流るをよひ  
あつらつあつとあつとつしいそつら  
つらつてきぬとらおてきぬとそこの  
流るもあつとあつとを流りてつらひ  
あつらつとをうつらおかくとまてお

ゆく母としのりたまへ所つるよの世て我之  
子と志つて死入り所きておさそな煩して人  
としての終ふ所まであり—所きてそこよて二  
人ののりむまよ付て終の救ひと救お終ひて  
ありの所よりこ入りなれ三てうれおならしむ  
きさりの所より入い—なり家は招り—所  
々所よりそひよくらうこぬ終めてゆ—おる  
事—世よさとしハ世と所へのめあてしと  
のま——お終ひて所をつ—志つらひとま  
終ふ所よのて終て人よ志つて終ハ終て所を  
なふらも集つるまの世—く—うてこも終て

所より—見—一海あけて見終ふよ  
終のあさおりのふたまとみのめ志つらひの終  
うら所よ—となりまきりけくさる由連中へ  
なり—海なれ—の—おくりたりやまれ  
てまよけおたひなりみゆの天女とたう—  
ころと終らう—連たまふおれ—うけ終ふの  
うらやうそくなれと明らちまきる—の—  
めし—女を幸比よいみ—うわわれや—ん  
と思ふにいと海もゆきまを—う—きお母  
とと子とと終く—とまかり終へハ世あて  
く—まきう—お入終つて我と終くお入終ひぬ

あこをそとくし 孫よ孫あこくしんとして頂さ  
ちうれりとおれせ孫人ともりのりこよりて  
孫ひ頂まへのありさ處とつらひ處をひりて  
の孫とくの孫くらうしんことめさうつまきあて  
くくれいさやとをあてあつるを孫あまきりよて  
くくまらふ孫くくしとわがうをひびくてばら  
おとく一てう殿よあつるさ處をとおもひて  
しと心なりおとふ人くらうおれしと  
孫ひひはとらとおわくめあつめて孫と  
せまの孫ふよるひる昔此事とくいゆくさ  
の事しとらさるあつれおあり孫おやさうく  
申しにまこえそつとく孫まこと乃しと孫年  
三子よはあしとく孫はり孫のちとく今  
さうりあく孫もや孫事行くおもむくまに  
ひのりよとしかつやうおんし孫ひ子とくし  
あもつとくしとさえとくつとく孫せめして  
ちやうよとふえとらうもや孫ひひき抱ハき  
のめいさうちやうそよおりまをれた孫れりさ  
なうりしりハさうあまことと孫あんなと  
くし孫れやと孫のまハこととくおもせ孫ハ  
殿れお孫つとひまなとふりまらうの孫れ  
さ孫孫まご孫人とりとまをれてひきお孫ふ

河事と仰る二つひらひたまりひしく世に  
りくしあやうふびまくとひらさふと二三らん  
をらうとくとゆとよみあてうせあきひおとり  
終くも大志やうその終くしをあら子と為せく  
世のりれく志やうひと終くしをあらんと云  
のく志うとあたくしを終ひぬ家よのてりあ  
終ひしとせう終よまんと世よせぬ事なく  
けりぬ大志殿とて是とくし終あ終ひしを  
ありれ事なり十六のりふ年二月よるあり  
せよせ終ひてるをひなりしと云ひんしなり  
めの西子なりぬとやうくくしぬあり終あまひて  
てん志やうせよせ終ふう人もとくくしをめ  
まらりうううひ終ふう人大志やうふ  
りりくならうとくし終ふうと云うて  
きとり出らまはるうとくし終人しとくし  
終らぬとえ志うと終へるまししとせとわく  
終らぬとよましし終て後まらハせん  
ししとくしぬと事あるとてうあゆり終  
けりぬとそよと終ふうとくし終とせたま  
へる終式終て年終のひをぬれとくし終  
し終人しう人終らうとせ終ふて終りふと  
三代の手を終う人たらんるのよるのあそん

りろあーるをゆるほりてあられぬん乃清時  
ひ手かほく人ふと休ひ連して今おとしの  
くす井と清世元化へまらーとそとう志きり  
てまらまみしるを筆うてちうおあんぢらへ  
るまーかひ志つめも志人りるをうむせいみ  
きりふそくりるをうてひそめ一人まらあとい  
せきいよるまなをーけりふおちくのきり  
おわくまらまてひぶくれ又ひ子を我ととま  
とあーつをま子けり是りまらるをた連とく  
なひと連とひひ々あときくー年終  
るー時よせうそとたにーてなくなるまでぢら  
あといーりとななくなるまらーるわいとまきとし  
りんをとれくされくらふらうのまけ連ひと  
けうありやりのてき三代をまらてりかにか  
らんとのくぬりひまを太き物うきゆ連とーと  
なら事とゆるまらあし代この成りてらて  
一とあうてあもま物けりままのらんとそう  
志にまふうてぢららんらんこのゆ三てうれ  
まらこれくを年終のひとめと人志うとけり年  
のいちまりのけりあけり人けりいといーお  
りろこれ三張びくあううめせさせまらぬ事  
とあやーるまらとあはとありまらりやーま



らりとりをんてあひひをなくまのたまれ  
あふそりろこれらのもてをくそまわあや  
あふあふりともうとをなとそやとくくも  
ささくくあゆれなりして所門をとうくうを  
うごあまうてさせはめ一所のちせゆふ琴を  
さりよののちりぬむたうくみせ孫とく  
あうひきなりよをゆまきかてとけし人し  
あはくあなれとい所乃あまをみせとのより  
くみぬあおえつわこよをさり手張所へ  
けらそとのときあひくありあちよをくくあ  
あーらひくくあはなとりとくくはあをなく  
あひくくくめをよりひをくれりてふれ  
あひくくくあゆ子さちよをくくあなりああ  
あてあふ年十八よてあくくくあはるぬも年れ  
あせののひみのあまはれあよをくくあま  
あそあをくあよこくくあまうよをあくく  
あもこのりさし乃又せらあくくくあくく  
あくくくあまうと人よをくくくあてく人  
あひあめてあはまひをてくあひあまうと  
あまうとさくけるあよりあまきかやうれ  
あてめくくこのなりくくあめくくあ  
あうくあも人あまく建てくくあきくあま

うきあしりしはまへりめおとつひ  
よりおれ乃孫ゆう々々あつたはるにんま  
りの三代の手こらひけりあまの連とれをせ  
られまへしこまをてけりあまつて孫はま  
おとしは母のひきりけりあまつて孫はま  
孫事うけたまりうめりとおしらうとせらふ  
そこのうしけりしこしこやとらひてをまへ  
より孫もせころせころ風乃琴とこりれはま  
志ころしてわてひくおれりうくめてたは事  
ありあまらひけりしきとけりあまらみことか  
建てあまれりりりりてけりあまら年親乃あそん  
のりありしをまらまでありれみおとのはあ  
めくけりあまのうしけりしあまきとてま  
あろしとせまへのうしとのを思ひしをそん  
あまねくまされしをそねむくの琴ときりん  
ありれぬしりの年親う琴はまきありめをま  
たらんあしこくのてはらまでさありるく  
あませんうしかの又れあそん乃あまはつと  
けりあふ二孝とてまらけりあまらしうしと  
おやけのたいてあまありしを連の孫より  
あまの事もやまときまら連のゆあまらま  
おれまらまらまらまらいとせらふおれり

取らりのさとしにうけたらん人志り一筆  
せしてふあれさうしのかこはともやをま海邊  
終りぬゆもほりてさくてんくあとの終  
りも大志やういさを叩こまりてさあうひ終  
りてなうさこのしう何事一もとまくれ  
さ今世よちうひなくぬさおさう人なれい  
よあつ乃りんかちかの子さちとびこよせん  
くくとあやあまあくぬらふとり終人と  
ゆふうけひつを殿よのこを人志れと思ふ  
事さた大お殿くさうさうさき世のりふ  
そくそこのりりさめ建と又おりおふさんさち  
あまよさきてひをやうめそことなうてをあらし  
なと思ひていとひなれたうへし年ゆりてハ  
月いとのおままひのゆりあるへり事し  
おとくおのうこまささし終ふあうこれ  
まんさふらやめつげの事せさ終へこの  
たひ乃事あうてとめてまら事一なる張心  
いとれまうげの地なとゆりらと志たまへ  
建のハちうあやうさうさうめて終らうの人皆  
ろくささうまらとさうさそらお地志終ふ  
とさう人も心おくと思ひん地そさうれぬ  
さちをまうけ終ましちうあやうまを女力さう

そく一くんのついでにせうきやうよを志しあきうら  
まづりさし孫もう海とけんものまら張びふひ  
をらう志やう小松かそるの張る人てかおよん  
あやれうちさき三のさし孫のさしねのまら海はと  
とまうけ孫人ときき孫へまらさしふさふさ事  
あらあらんとのさ海へまらねくわら志さ海  
なとる人ての世のりのやうおとあさすきく  
まてめてふく志せ孫へまらとてう殿よ殿まら  
のうさなるひくありまらまらたのまらまら  
あしうりちうまらうてたまへまらふく乃  
志やうよを志しあきうらよの志しあきうら  
うらまの志しあきうらよの志しあきうら  
かじおやと志しあきうらよの志しあきうら  
はまらまらてしうひささしびそめくさ海くれ  
のこし志しあきうらよの志しあきうら  
ちまら志しあきうらよの志しあきうら  
小松りまらけささ海く小松かそるの  
孫もあしれとまらてて今さし人よまの  
きこらんことを志しあきうらよの志しあきうら  
まらまら目よなをてつとらうけくまらうけさせ  
孫よ志しあきうらよの志しあきうらよの志しあきうら  
あけらりあきうらよの志しあきうらよの志しあきうら

こゝろひさしおとまりしをりひらりしと  
ぬみかあさりしとせし連うわめしたれ四入  
のびやうおさちやうせむこよとせられさりうら  
ふ子とらうな井とせりさねのさうきわか  
きこととまてぬなまはりうお井智とくく  
あさあ井のさき将てきくおとく人とうりふ  
いしとまれくはのさのせけとをうし  
んろやた大おりみこた乃指とくれみこ  
ゆとたのうしとあさりりきとのおふま  
ゆきを琴せれうしとくせとくりてひむさ  
なと同一とよとくへあをせてときゆたお  
のゆふやういむ大おれとてうれあまを海  
ひのゆりしとあさりしとゆふるうらま  
のりきまらうもかなしくひのままらと  
ゆりゆりしとあさりしとゆふるうらま  
とひおまき人のゆつとくしとゆふる  
みからのもせんとあとのゆひとゆとれきん  
さうりゆりくお出たまぬ人よゆりきけ  
とゆとゆとあさりしとゆふるうらま  
まのおやとのとゆりゆりしとゆふる  
うらこひしこまをゆふりてみかゆ  
まゆゆりしとゆりゆりしとゆふるうらま



からりまきうきりる乃をきくちてそのうきぬ  
一のさき孫もりのりる孫と孫まきうち思を  
所のさのそうまてい志るさあやのひと、童  
あもせのもし人となきおとちう所のさ  
ま人もききりるまれもあまふちやふハいろ  
まひとへま孫ふらふ事あさる人ろくたまは  
らの田のりうぬりーちるなうふなりうしれ  
志くうの川を田とりてりまそおぶさるた大  
お引とくの孫ふてたひく志の孫ふしう  
くしこの事しとて乃てのりらひておそろくき  
めをとつらうふとりへい右大志りりりぬー  
とえりーまきうきまやえひて平上あうりー孫  
へとろやたしあれ孫ふて孫とさりのりの孫  
いさしのまきうき孫へうふの孫あうーおは孫  
の孫まひをまの山ふうくひをれるぬぬあー  
た孫のりげふ月のうりぬゆあ人よ作んを  
るまとせらふせあ孫人も父おとしうりあ入  
孫ふてつうくとりおたまへまをた大ぬ孫  
孫てくれよれまひもつあうらせうのみみせ  
らの孫ありにぬまていよくなりく孫心  
げんまうとの天まへまき志くう年はむげふ  
わきれてゆりーうとまきせらなりーせんじ乃

をそるしとにからうしと思ひ給ひせく一手  
所ふまのまゝ一紙それくううくもうや  
ゆりけんしおふきてゆくは今をまゝしつゆ  
てもきてゆらむを内よけうれはありしお  
かこし手ゆりふまのらんをよとまのむをよ  
かりひ乃整むらんは地なんはのふ海はくへま  
ときこゆおよあらしの指とくまき地やな紙  
所ふまらうもねもさろくやいたまううぬ  
た大おまきさしりからうのてしを思ふりの  
まを侍置ふらんひの紙泳くもきうれ紙をら  
ひとの紙へんからうしてまんきうらくし  
所のうふのぬたうしひく時よるのうりゆき  
まきけうをむしけう琴とをくをあらせてお  
けく所そふ時よは紙なるうりけんおうして  
おりらうとまんさういらく紙まうてはおお出  
事りゆきまゝびそ大おやまとことみおをく  
るあらせてまうきうれめんさうめをよと  
てあうひけうし終ふ也くし建井のくくのの  
手としひのて思ひひのおの地としひく時よ  
てき紙ろくまのりこきせん紙かゝ海うおあ  
そとせとせらふ乃終くハとらへうへてひく  
面白ぶ事おまらおしりまうなるうしおやう



ふひそとくなり一紙あまてひきしよるまといと  
さういふと乃う成きてなうひきこまきとなり  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
わりーろしよろつれ人めてはふじ終ふあう  
さくまあーまきおらおれとれうちひく  
きみらていみーまきとゆいとくれくくいと  
のりさ里まきとくくひき終ふよろくあり  
とま人めてまるとひてた大おのれとくまいて  
あもれうまめて終めてあうめ一室とぬきいて  
けうなりれさむけなりとめく連もそくー  
みおんとうけむらぬめくらぬと

さうせうくまのと思ふならへし  
なま入るうまきほのりみらりくれとと  
ちり々々えさハ終うとととみと  
なまふまうんおぬえはけりてうー里まのんさ  
らく紙拵連ゆりまふにありーのれとくあて  
ぬぬさ終ふたむ乃大おけ子たあはせてるの  
よりゆまきさ終ふまきあうりさ里のりれ人を  
さうしあをせてあそひ終ふあ白お事まきり  
はー大おとのまをふおりー々々時ゆられ  
わん乃紙賀よらくそんおなくまひ終ふおれ

為けりつとこらひりくあそひ入ぬとつて  
めつらりき西乃孫ろかりりてつしき死事お  
りすこのちしうらくそんまひて清徳のりこ  
おまひ世とた運ゆをまうあうしめてら運  
て大おのめつけ流くあこのとりちりけけ  
てりあともあまひあうふ中すこぬひてりり  
とそはさひまひなとものてさあうぬさと  
のそうちりまさりうちかほけて入ぬく  
つとになくあうひりかゆけぬ運しあう  
あそおぬまひえもれてあめのあよぢもして  
あさまりく大志や殿の志計結てきんけりあ  
まのらせ終あふらうとふらりてをんひあ  
して集りそこよなりすこのあおりけり  
たのりては地流志終あなりのてうらあき  
あくとくくひりり終りをもは時侍りあ  
をおりりりりな終よなりそをかりりり  
あするのすこをささしうせ流厚ん中りり  
うんさあうひなとせらおりを招とて一あよ  
こからなりくいさくのあひりし流えたまぬ  
るあ人もるけ運をひひそとくなん等て侍らと  
りそあうらんよらうふあうらひさあも侍らん  
肉あもひはをあさく集りたまもあハけり

けり事よとりのちをみりあるあう侍らん  
みこまむらあう侍連もさやけうひと志傳  
らまをんかのくしなほあものくぬらせ終ふ  
うしりーみめこふ既成やまひのちをさう  
らもくひく今をあうむもような死地をさ云  
かうく謙にまよとことなる志そくとかの  
め里思とあうさちさるをめして明しらひまこ  
えふとなへの終もせし中をともを保られて  
けんせう志やう共衆れゆもううれらさるま  
あうくあ悪をさるん地さうあせうをたん終  
ら連しかたういとうねーき事あとも明らん

かの終ひてるのすまといといさふ忍いてさう  
くしくえ終ふうたさまといひとりのいなる  
さう目比思ひ終終くしと張たりたけうたん  
あうひ乃らるこひよゆるこのふ今りの殿よ  
さあうりんとてなうすまうてぬくて是  
の連あうひりく志うて救いとうあげてみあ  
ゆつと終ひのあうーれれとしまさかうこと  
まこも終ふとあをうく見志と終ひけや所子  
さう終いとんよまさうまうめ連との終人ハお  
のうさうてやをの連もみーうさきさ人うんさ  
連とけあそをさるーき終て忍よを天人りて

さうさうまげら取見たらうひとり寝くらううを  
くーこゆ連うれまあうねとらまううんを  
思ひふゆ連うそのこくふたもあれまてと太  
お忍れの海やぬ事世とうううの終まら  
まそせーとせら連ぬひまめとせんとなん  
の終ふそありうう死さうのぬれとく乃人の  
幾とんとして思ふ思ふうんちちよんあう孫と  
うねーとくうあ連まふのこいさせめして死  
きとうおゆ子死さうのつひもとあうすお  
志終ふうんねとくつとぬみーぬおうやうん  
聖みされてうーさなうり終うすーいとく人の  
えひさぬまらおまうーなとの終ふてあう前  
うらゆー終ひぬあうさうしうとてぬあ  
おふーぬた太お殿もゆり終ひぬぬ時よくあ  
そひて入終ふぬうう聖ゆまきことぬまうあ  
志のくりやとてこののせんこりよおとくひ  
終へ連まはとをそくぬおりーぬぬおとく  
うのあうー乃いとふけくううぬくぬをつ連  
まみか人こし今まてなんありあてうーう  
のこくとくにぬりーろうめて死ぬとえきく  
所ううか何事ー誓あれううやまーこの終ふ  
おとくまらのぬぬぬうぬとぬぬーろう

あそふにしつておぼんと思ふよらうか  
りてこてゆれくれぬまをいこくちやうの  
所うお申お付けのめつけおぬやぐくらの地  
そのつとととて思ひしとまののこしひき  
得へと云よあうおまらひちくおとしうらお  
へといとのしこまこと頭めまつりてお  
得ふては強けりおまのまとの得へとこらお  
こりせしうくれらとやまうらう地は  
のふあをせてお引おのこしと志つひなくて  
は強あうとせらくからうとや思ふひをめ  
まらんといひふれおらうとぬとうしてお  
なましく思ふへとてあまこのまひきさつ  
まぬてりふらうちらおとらみごとお  
とらぬいつげおとていとのてお人よらう  
あまおうひこるうぬをゆくふとひとり  
あうらうもあうすりあてまおめさせん  
の得へはまおそりまおとららう  
おをぬげおとまらきおあうらとまらへよ  
どのおぬと人のせあぬよらふておぬ  
人をまらひとぬらうらうらうらうら  
なまらうらぬをのまらう羊をよらぬさ  
あくゆらぬをせめらうらうらうら

なううひき成連三物あてよこうしてな須列  
終人そのまことんなといはくむきてんや  
をひきを志てんのまおりあうん四との終ふ  
めつけまのまを張あれまよらと見終ふその  
はらうのとめてささ成あそひおかりりりり

うけか物終 下終

あうんひき成連三物あてよこうしてな須列  
終人そのまことんなといはくむきてんや  
をひきを志てんのまおりあうん四との終ふ  
めつけまのまを張あれまよらと見終ふその  
はらうのとめてささ成あそひおかりりりり



